

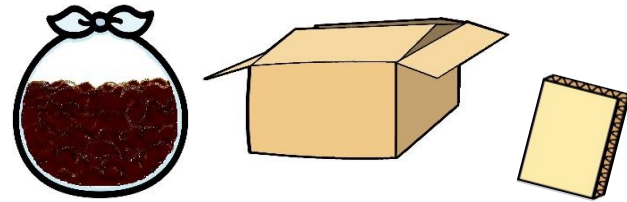
段ボールコンポストの作り方

段ボール箱に資材(ピートモスと籾殻くん炭)を使って生ごみを入れて堆肥にする段ボールコンポストの作り方について紹介します

1. 用意するもの

○資材

・ピートモス、籾殻くん炭(土壌改良剤)



○段ボール箱(容器)

・みかん箱などの厚めの箱を1箱

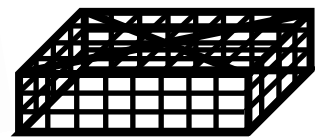
(縦30cm×横45cm×30cm程度)

○箱の下に敷く下敷き用の段ボール(底の強度を上げる)

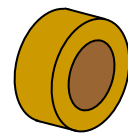


○通気性を良くするための下敷き

※ビールケースなどのコンテナケース台苗箱など



○こてやスコップ(ダンボール内をかき混ぜるため)



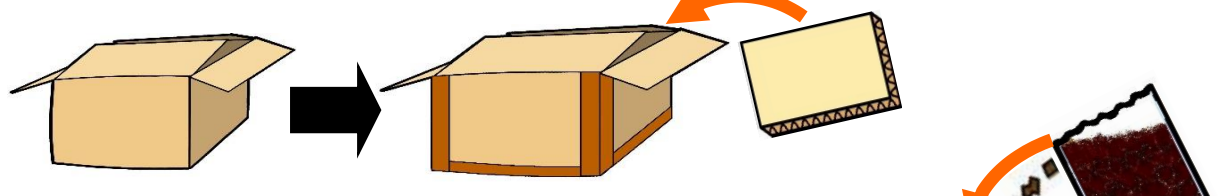
○ごむ手袋

○紙のガムテープなど

2. コンポスト容器をつくる

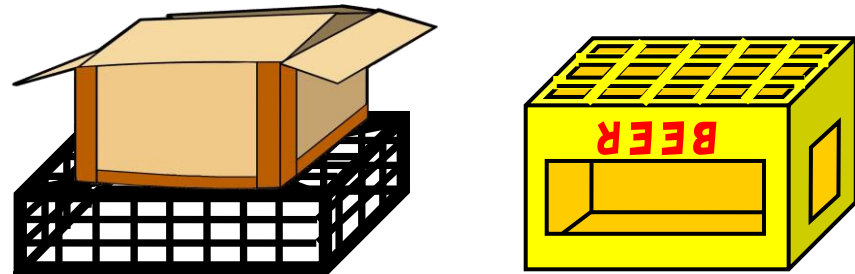
①段ボール箱(容器)の底から資材が出ないように隙間をガムテープでふさぎます。

②箱の底に中から下敷き用のダンボールを1枚敷き、二重にします。

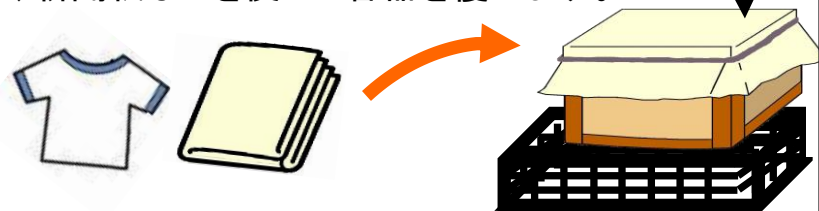


③資材のピートモス、籾殻くん炭を段ボール箱の中に入れます。

④通気性を良くするための苗箱などの下敷きを敷きます。



⑤古着やTシャツ、バスタオル、新聞紙などを使って容器を覆います。



3. 生ごみを投入する

コンポストの準備ができたなら、いよいよ生ごみを投入します。

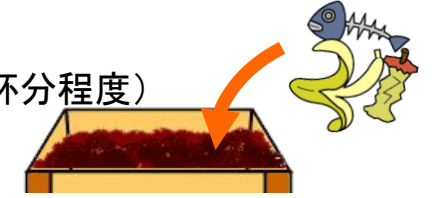
生ごみの入れ方

●1日あたりに投入できる目安の量は500~700gです。(三角コーナーで1杯分程度)

●生ごみは**細かく切って入れます**。(生ごみが分解しやすくなります)

●生ごみは**適度に水気を切ってから投入**します。

細かく切って入れた方が早く分解します



ポイント

★資材がばさばさに乾燥した状態のときは、コップ1~2杯程度の水を入れる。

※微生物による生ごみの分解には水分が必要です。

資材がほんのりと温まっている状態を維持してください。

逆に水分が多すぎると、分解が遅れ、段ボールを傷める原因となります。

適度な水分が必要です



注意点

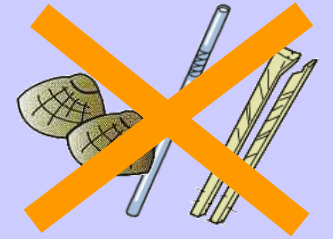
★入れてはいけないもの

割り箸や爪楊枝などの木製のものや、ビニール、プラスチック類、貝殻など。

★分解しにくいもの

鶏・豚などの骨。

繊維の多い野菜や芯、厚い皮など。ただし、細かく切ること可。



毎日の管理

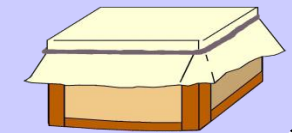
生ごみを入れるたびに**よくかき混ぜ、空気を入れます**。ごみを分解する微生物の活動をよくするためです。かき混ぜ方は、投入した生ごみが見えなくなるくらいです。

これを毎回繰り返します。

かき混ぜたあとは、臭いや虫を防ぐために布やフタなどで投入口を覆います。

二週間ほど経つと、微生物の活動が活発になり、温度が上がってきます。

それまでよくかき混ぜましょう。



4. いつまで続けられるのですか?

1箱で約6ヶ月以上使用できます。生ごみの量にして約30~45kgを処理することができます。

箱が湿り気で膨らんだり、分解に時間がかかるようになり、全体的に黒っぽくもっちりしてきたら生ごみの投入を止めてください。

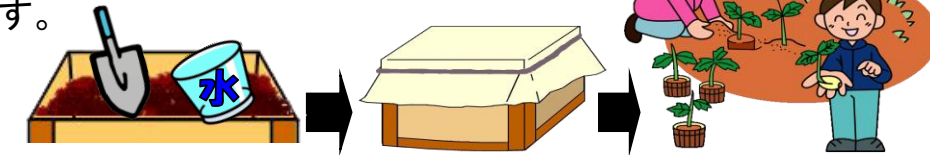
中身がべたついてきたり、塊が多くなってダマの状態になったら終了です。

5. 堆肥として使うには?

生ごみの投入をやめ、1週間くらいは残った生ごみを分解させるために毎日コップ1杯程度の水を入れてかき混ぜます。

その後は段ボールのまま、もしくは中身だけを土に埋めて、1~2ヶ月間ほど放置して熟成させれば堆肥として使えます。

※堆肥として使わない時は、段ボールを補強すれば1年以上使えます。



6. その他

中津市クリーンプラザ及び各支所では、段ボールコンポストの資材(ピートモス・籾殻くん炭)を1世帯に対して年間3袋まで無料配布しています。

詳しくは、中津市クリーンプラザまでお問い合わせください。